

独断

注目商品

# REVIEW

## 黄化葉巻病対策でトマトの商品開発は戦国時代へ



■お問い合わせ

52 トキタ種苗(株) : 048-683-3434

53 タキイ種苗(株) : 075-365-0123

54 (株)武蔵野種苗園 : 03-3986-0715

55 朝日工業(株) : 03-3987-2163

56 ナント種苗(株) : 0744-22-3351

トマトの最重要病害虫である黄化葉巻病に強い商品の売り込みに種苗各社がしのぎを削っている。今年に入って各社は耐病性だけでなく良食味を持たせた新商品を続々と投入した。同病のイスラエル系とマイルド系の両方に強い大玉トマトを紹介する。

### ブリーダーを現地に派遣

トキタ種苗(株)育種第3部の吉田昌美部長の鼻息は荒い。

「黄化葉巻病対策は種苗会社が最も力を入れるところですからね、うち

も今年はこれに社運をかけますよ」  
同社では部署横断の10人チームが「TYプロジェクト」に着手。その成果として今年、早生の「豊作祈願」を発売したのだ。

特筆すべきはその育種体制。国内最大のトマト産地にして黄化葉巻病の多発地帯である熊本県八代市に、ブリーダー歴35年のベテランを派遣した。このブリーダーは同地に在住し、3年かけて「豊作祈願」を開発してきた。それだけの熱意をかける理由について、吉田部長はこう語る。「今回目指したのは、トマトの木を

強くすることで基礎体力を向上させ、ウイルスに感染しても収穫ができる品種の改良です。被害が深刻な生産現場で毎日観察したり現地関係者と情報交換をしたりすれば、本当に強い商品が作れると思いました。『豊作祈願』が強耐病品種というのはそのためです」

実際にJ Aやつしろ(八代市)による種苗各社の抵抗性品種の比較試験では、抑制期間の出荷量については「豊作祈願」が最も多かった。商品果率と秀品率でも、比較対象品種とした(株)サカタのタネ「りんか409」に次いで良好だった。同社によれば、節間が短くて1段当たりの収量が多く、11月から翌年2月の収量



トキタ種苗(株)「豊作祈願1103」

で10a当たり11tだったという。「何より国内最大のトマト産地で評価してもらえれば、全国に広がる可能性が高まる」

### 「桃太郎」の血を受け継ぐ

タキイ種苗(株)は、同社の代名詞といえる「桃太郎」の血を受け継ぎながら黄化葉巻病にも強い「TTM-076(桃太郎ピース)」の販売を始めた。適作型は5月下旬から7月上旬の播種の抑制栽培、あるいは7月下旬に播種する越冬栽培。果形は腰高で、裂果が少なく硬玉で店もちがよいという。

これまで「桃太郎」シリーズでは、青枯れ病や葉カビ病に強いなどの特性を持った多くの商品を誕生させてきた。今やトマトの栽培面積に占める同社が扱う種苗の割合は7割に及ぶ。「TTM-076」で市場シェアを一層伸ばしていく。



タキイ種苗(株)「TTM-076(桃太郎ピース)」

## 全国シエアNO.1の後継品種を

越冬作で黄化葉巻病に強い品種として国内最大のシエアを誇るのは「アニモ」。タキイ種苗の牙城を切り崩すべく、朝日工業(株)と(株)武蔵野種苗園が互いに持てる資産を投入して共同で開発し、販売してきた。「どのトマトよりも玉が硬くて棚もちが良い」ことなどが受けて、シエアを拡大してきた。ただ、ここにきて食味の向上を求める声が多いことから、同病の耐病性とともに良食味を持たせた商品を開発中。武蔵野種苗園は「1年以内に世に送り出したい」と意気込む。



朝日工業(株)、(株)武蔵野種苗園「アニモ」

## 最強の遺伝子を注入

ナント種苗(株)は2年前に「NTOTY04」「NTOTY05」を投入した。「黄化葉巻病が問題になっている本場の欧州の種苗会社から最強の遺伝子をもって育種に活用した。だからとても強い。また青枯れ病と根腐れ病以外の地上部の病気にフルスペックで対応できる」。すでに販売している同社の黄化葉巻病に強い「大安吉日」は初期の草勢が強めで肥大は良好。しかし、中盤以降では草勢が落ちやすい。対して「TY04」「TY05」ともに後半まで草勢が維持しやすいという。このほか、みかど協和(株)は今年、



ナント種苗(株)「NTO-TY04」

## 黄化葉巻病の発生が確認された都道府県



※資料提供：農水省

早生の「TYみそら86」を世に送り出した。空洞化がいくと、裂果が少ないため秀品率が高いという。種苗各社ともにさらに耐病性を高めるほか、幅広い作型に対応できる品種を開発中。年内にまた新商品を投入するところもあり、今後の行方が注目される。  
(窪田新之助)

## ことば 黄化葉巻病

症状としては上位葉の葉縁や葉脈間が黄化するほか、葉が巻いたり縮んだりする。発病すれば早期に落花し、著しく減収する。媒介するのはトマト黄化葉巻病ウイルス(TYLCV)。国内では1998年に初めて発生が確認され、今では37府県に被害が広がっている。